

## 「欲望のコントロール」

秋田県・洞雲寺住職 柴田康裕

ある男性を乗せた船が、不慮の事故で沈没してしまいました。

幸い救命ボートで一命は取りとめたものの、その男性は一週間も漂流することになりました。

その時、

「とにかく水が飲みたい。水を一杯飲んだら死んでもいい。」

と思いました。

やがて偶然通りかかった船に救助され、そこで水を一杯飲ませてもらいました。その時の水の味は、格別においしいものでした。

ところが、のどが潤されますと、急にお腹がすいてきました。

そこで、船員さんに麦飯を一杯ごちそうしてもらいました。

その麦飯の味は、今までに味わったことがないほどおいしいものでした。

しかし、しばらくすると、今度は他の船員さんの食べ物が気になり始めました。よく見ると、隣に座った船員さんは、光沢のある白米を食べていました。

そこで、

「私にもその白米をください。」

と頼みました。

その時、男性は次のように思いました。

最初は水一杯飲めたら死んでもいいとさえ思っていた。ところが、水をもらって喉が潤うと、今度は急にお腹がすいてきた。空腹の時に食べた麦飯の味は最高であった。ところが隣の人が白米を食べているのを見た途端、今度は白米を食べたくなった。

このように、人間の欲望は、満たされるほどに際限なく大きくなっていくものだというのに、その男性は気付いたのでした。

だからと言って、一概に欲望が悪いということではありません。欲望がなければ、進歩も発展もありませんし、現代の高度な科学技術の進歩は、人間の飽くなき欲望の追求であったとも言えましょう。

ただし、飽くなき欲望が、多くの苦しみを生む原因であることも事実です。

そこで大切なことは、自分で自分の欲望をコントロールすることです。

いたずらに欲望に振り回されるのではなく、静かに坐って、己の心を見つめながら、欲望を正しい方向へと廻らし向けていく、そうした「自己を調べていく智慧」というものを、仏様のみ教えを通じて、ともに養ってまいりましょう。